

在宅医療連携拠点チームかまいしの取組み

連携の土壌づくりとタネまき、取組みの見える化
～地域包括ケアシステムの充実における連携拠点の役割～

釜石市地域包括ケア推進本部
事務局長 小田島史恵



釜石市地域包括ケア推進本部と釜石版地域包括ケアシステム

～釜石市地域福祉計画より抜粋～

◆釜石市地域包括ケア推進本部の設置《H26年4月》

釜石市では、年齢を問わず全ての住民が、住み慣れた釜石市で、安心して自分らしい生活を続けることができるよう、5つの要素、医療、介護、予防、生活支援、住まい) のサービスが一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築のため、部局横断的に企画調整し、具体的な取組みの推進を図る部署として設置。

当市の地域包括ケアシステムの方向性と、本部の体制整備に大きく影響を与えたのが、

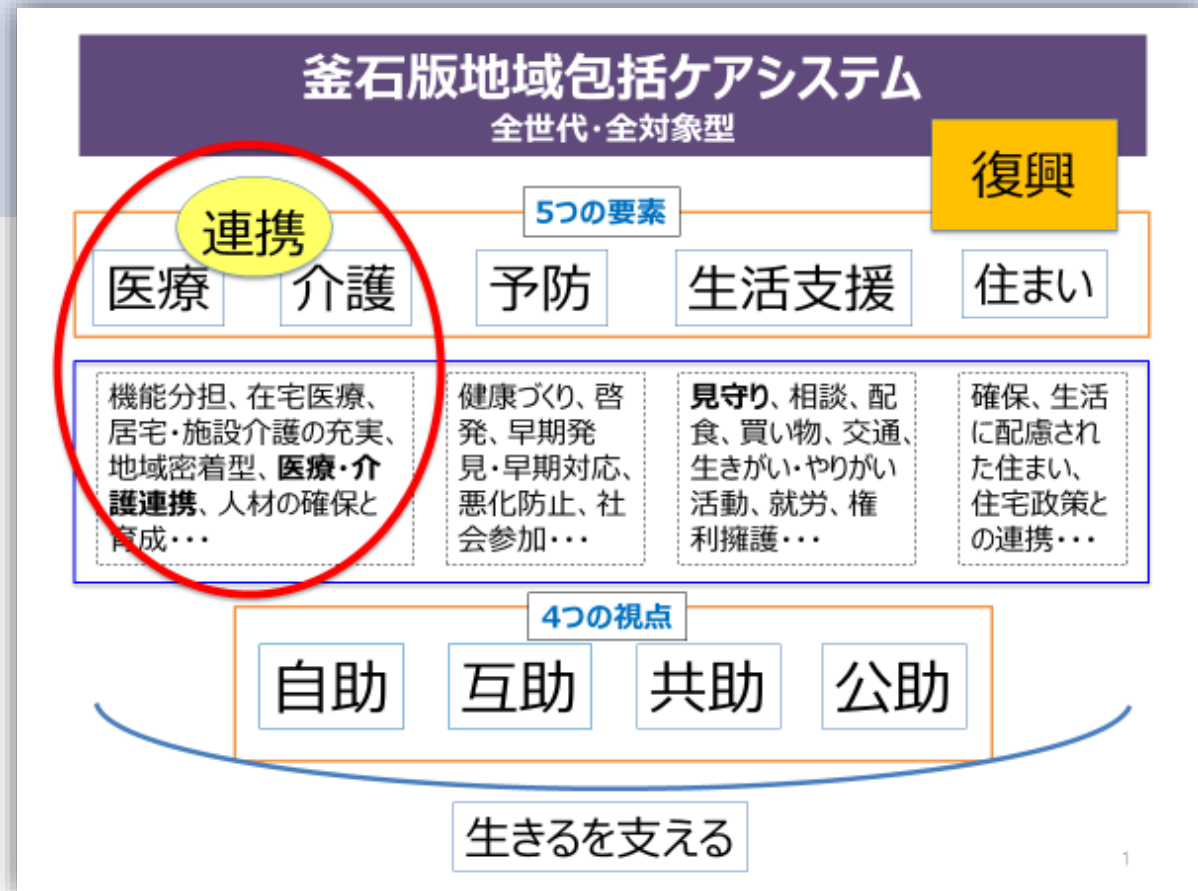
「地域包括ケアを考える懇話会」と
「在宅医療連携拠点チームかまいし」
の取組みです。

◆地域包括ケアを考える 懇話会 (会長:釜石医師会長)

H25年2月、復興を内包した地域包括ケアシステムの実現に向けた懇話会の提言

～生きる希望にあふれたまちづくり～

構成員：医師会、東大IOG、介護支援専門員連絡協議会、社協、老人クラブ、シルバー人材センター、有償ボランティア団体



在宅医療連携拠点チームかまいし

@釜石市地域包括ケア推進本部事務局

背景

◆当圏域の地域医療全体の中心的な合意事項

「**県立釜石病院（地域の基幹病院）を守る!**」

◆医師会が連携拠点の役割を担ってきた

H19年4月 県立釜石病院と釜石市民病院の統廃合

H19年6月 釜石医師会主催

「釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会」設置

在宅療養の推進に向けた医療と介護の連携体制の構築、コンセンサス形成、
医療機能の分担と明確化、連携の課題抽出と解決策の検討



開始

厚労省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」の採択を契機として、平成24年7月、医師会との連携体制による釜石市役所の所管業務としてスタート



特徴

- ・医師会の介護在宅診療部会長がアドバイザーとして派遣
- ・一次～三次の階層別の連携手法
- ・連携資源(ケアの担い手団体等)の設立や取組み等に直接・間接的に支援することで多様な主体の取組みの推進に寄与

目的

地域包括ケアシステムの充実に向けた

切れ目のない医療と介護の提供体制の構築

患者・利用者の
生活の質の向上のため

※包括ケアの5つ要素…医療・介護・予防・生活支援・住まい

連携co の役割

ケアの担い手となる各職種の専門性が発揮できる環境や関係性を整えること

- ・職種間の連携に関するストレスを軽減すること
- ・職種内の温度差解消のお手伝い など

岩手県の二次医療圏



	H22 4月末 (※1)	H24 4月末 (※2)	H30 4月末	R4 1月末
--	--------------------	--------------------	------------	-----------

◆釜石市 (面積 : 441.32Km²)

人口(人)	40,370 人	37,617 人	34,202 人	31,345 人
高齢化率	34.4%	33.8.%	38.3%	40.1%

◆大槌町 (面積 : 200.59Km²)

人口	16,171 人	13,173 人	12,002 人	11,145 人
高齢化率	31.6%	30.5%	36.2%	38.6%

※1…東日本大震災前年 ※2…チームかまいし設置年

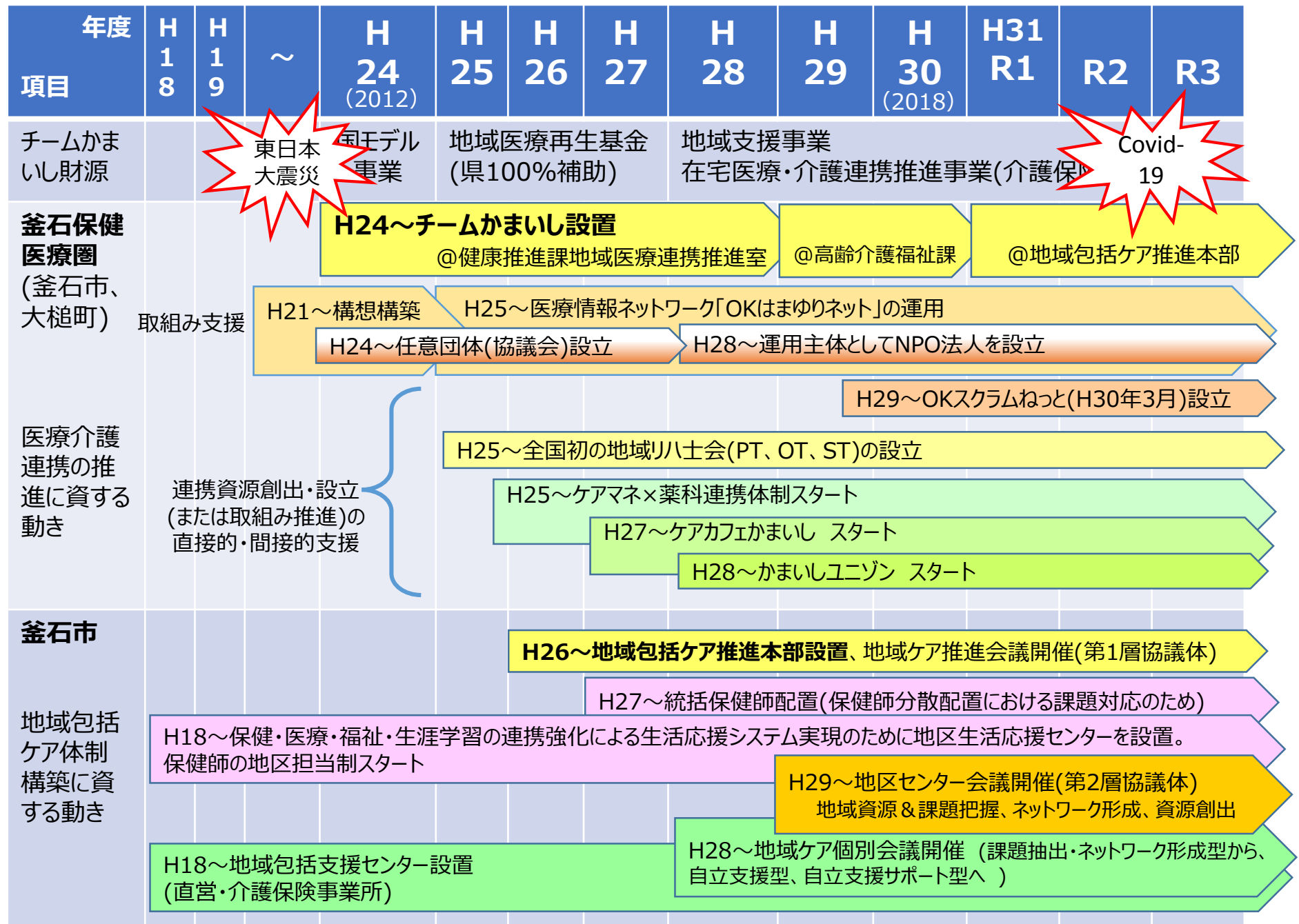
釜石医療圏

釜石市 + 大槌町 (H31.4月末)

人口 42,490人

高齢化率 39.7%

在宅医療連携拠点チームかまいしの設置と地域包括ケアシステムの構築



在宅医療連携拠点チームかまいし

◆平成27年度

- ◇厚生労働省主催「第118回市町村職員を対象としたセミナー」事例紹介（釜石医師会/釜石市）
- ◇厚生労働省主催「在宅医療・介護連携推進事業に関連した研修」アドバイザー

◆平成28年度～29年度

- ◇厚生労働省「在宅医療・介護連携推進支援事業」アドバイザー
 - ※全国4～8カ所で開催「プラン作成強化セミナー」での事例紹介、助言、等
- ◇都道府県在宅医療・介護連携担当者会議 講演「市町村職員が求める都道府県の支援」

◆平成30年度

- ◇厚労省主催「在宅医療・介護連携推進事業」意見交換会 事例紹介（札幌会場）

◆自治体主催研修会等での事例紹介

H27…静岡県、滋賀県高島市、国立長寿医療研究センター、東北薬剤師連合会、岩手県介護支援専門員研修会、全国在宅医療・介護連携研修フォーラム、秋田県、宮城県角田市、宮城県

H28…軽米町、栃木県真岡市、宮崎県、滋賀県高島市、沖縄県、インターライ研究会、石川県、青森県

H29…一戸町、長崎県県南保健所、宮古保健所、岩手県、東北在宅医療フォーラム、東北ブロック在介・包括職員研修、宮城県栗原市、奥州市、大分県、群馬県

H30…北海道帯広保健所、新潟県、宮城県、栃木県那須地域、岩手県、福島県

R1 …三重県いなべ地域、東京大学IOG、岩手県(盛岡会場、宮古会場)、岩手県復興局

R2 …岩手県立大 R3…在宅医療・救急医療連携事業(手引き作成検討会)

※その他、行政ほか視察多数対応

◆◆取組みのポイント◆◆

①医師会と行政の連携体制

②チームかまいしの連携手法 = 地域包括ケアの担い手が抱える連携の課題解決支援

一次～三次の階層別の連携、職種単位の課題の抽出と分類、解決策と場の検討・提案・協働、取組みの見える化

チームかまいしと「ア～ク」～主な取組みの位置づけ～

【ア】地域の医療・介護の資源の把握	医療・介護資源リスト&マップの作成と公開（随時更新）、各種調査の実施、インフォーマル資源の把握、地域連携だより発行に伴う取材
【イ】在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	職能団体毎の打ち合わせ会（一次連携） 相談窓口に寄せられた連携に関する課題に対する解決支援
【ウ】切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	《チームかまいし設置目的》 患者・利用者の生活の質の向上をめざした【ウ】
【エ】医療・介護関係者の情報共有支援	地域医療情報ネットワーク「OKはまゆりネット」構築・運用支援 市広報・HP活用、地域連携だよりの発行、Facebookの活用
【オ】在宅医療・介護連携に関する相談支援	多職種向け連携に関する相談窓口設置 主に職種間・組織間等の連携に関する相談に対応
【カ】医療・介護関係者の研修	チームかまいし多職種連携推進支援事業など、ニーズのマッチングによる課題解決策の実施(二次連携、三次連携)
【キ】地域住民への普及啓発	在宅医療普及啓発パンフ作成・活用、市広報誌の活用、市民公開講座、生涯学習まちづくり出前講座
【ク】在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携	釜石・大槌定住自立圏構想ほか市町を構成員とする会議等に資する担当者レベルの情報共有・意見交換の推進

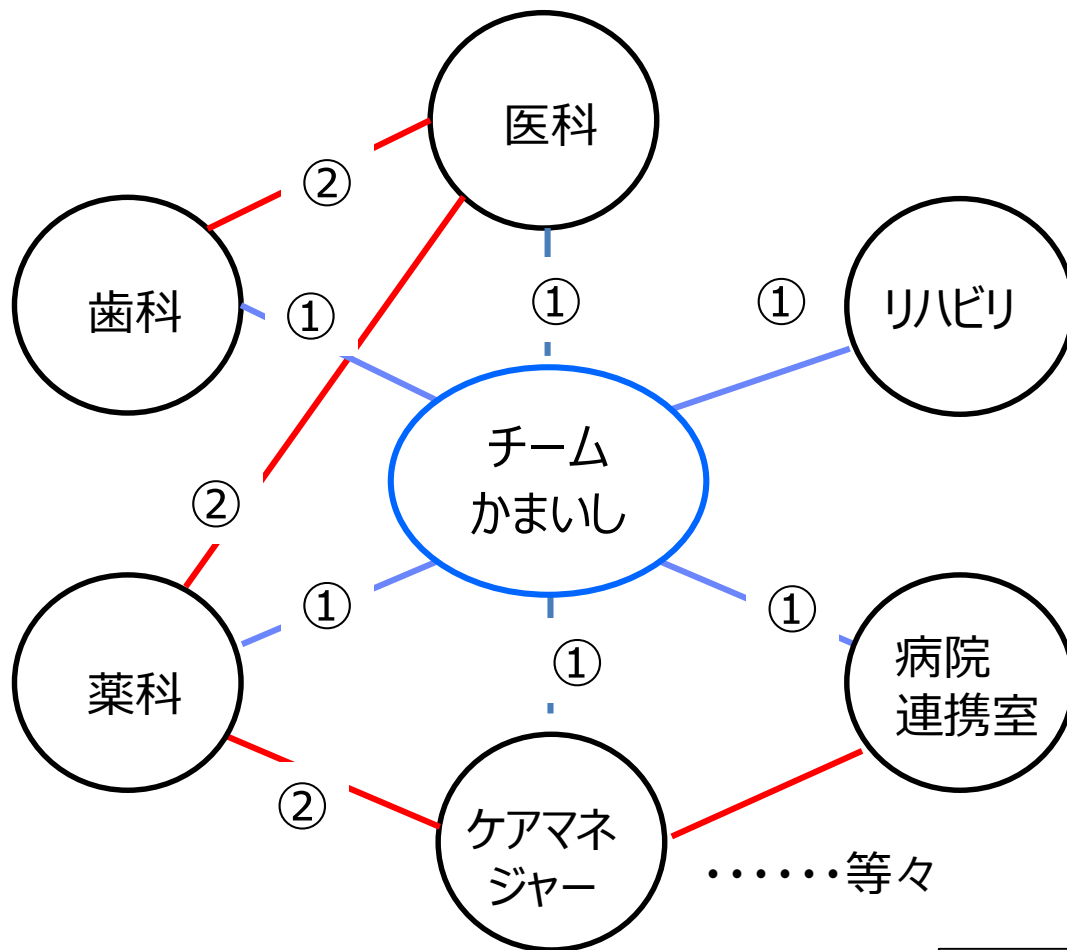
※令和2年9月に改訂された「在宅医療・介護連携推進事業の手引きver3」では、【ク】は都道府県の役割に変更されていますが、当市では引き続き取組み項目としています。

チームかまいしの連携コーディネート手法

～一次～三次の階層別連携コーディネート～

③地域全体のコンセンサス形成の場

イメージ図



①一次連携(青線)

チームかまいしと一職種の連携

②二次連携(赤線)

チームかまいしが仲介する複数職種の連携

③三次連携

コンセンサス形成の場

③地域全体のコンセンサス形成の場

《三次連携》多職種が一同に会する機会 ～コンセンサス形成・共有の場～

地域包括ケアの担い手となる職能団体や施設の代表等
が集まる会議等の開催

◆連携拠点設置当初◆
多職種連携の第一歩

顔の見える関係づくり

【課題!!!】

多職種が一堂に会しても

課題解決のための
現場レベルの連携
プロジェクトは進まない

◆釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会

◆釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会
(釜石医師会との合同開催)



～何故、現場レベルの連携推進の取組みが進まないのか～

◆ 層の異なる課題を同一の場で解決することは困難

一次連携で抽出された課題

≪ 職種における課題の3層構造 ≫

職種Aの課題



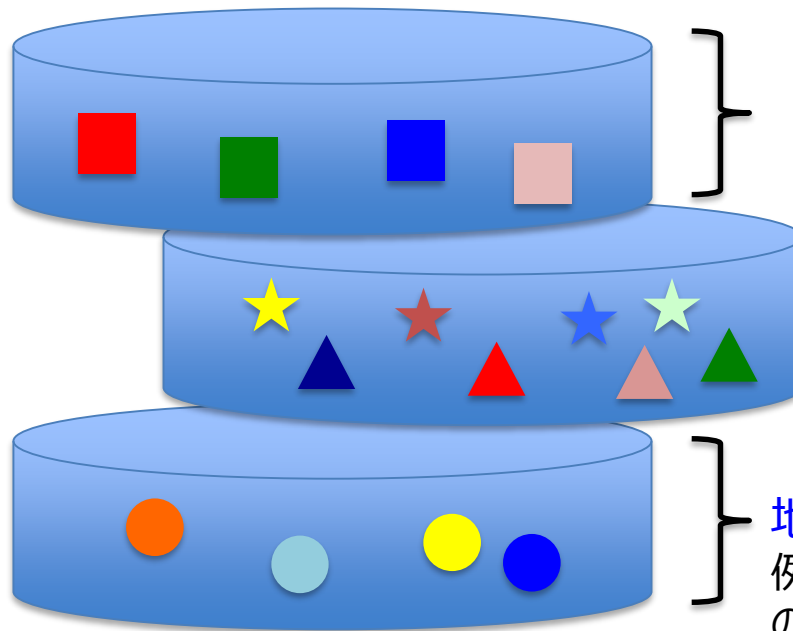
職種Bの課題



職種Cの課題



職種Dの課題



職種内の課題 (フィードバック)

例: 職能団体の総意形成、
知識不足、温度差

職種間の課題 (二次連携へ)

例: 他職種との相互理解、
相談ルート、窓口

地域全体の課題 (三次連携へ)

例: 地域医療における役割分担、ICT
の運用、各職能団体の総意の共有

連携拠点の役割:

課題の分類とフィードバック、課題内容に応じた解決の場・手法の提案

《一次連携》職能団体等との打ち合わせ会 ～連携の土壌づくりとタネまき～

各職種の事情を言い出せる顔の見える関係づくり
会議ではなく**打ち合わせ**。笑いも絶えません (^_^)b

歯科医師会と



リハ士会と



「釜石リハ士会」の設立を支援

介護支援専門員
連絡協議会と



栄養士会と



一次連携は連携の基盤!
事業推進の土台です。

- ・薬剤師会
 - ・病院連携室（急性期）
 - ・病院連携室（慢性期）
 - ・訪問看護ステーション
 - ・地域包括支援センター
 - ・介護認定係（市・町）
 - ・介護施設連絡協議会
 - ・生活支援コーディネーター
 - ・地区生活応援センター所長
 - ・社会福祉協議会
 - ・市保健師
- ※順不同

連携拠点の機能の周知
の場にもなっています。

チームかまいしの連携コーディネート手法・一次連携

- ✓ 一次連携は、連携拠点と一職種の「打ち合わせ会」です。
「会議」とせず、ざっくばらんに意見交換できる場となるよう努めます。
一職種に絞ることで、他職種の目を気にせず発言しやすいです。
- ✓ 一次連携の目的は、
 - ① 職種が抱える「連携の課題」を拾うこと
段階を経て、課題を共有し、解決策を検討する場ともなります。
 - ② 連携拠点と職能団体等の顔の見える関係を作ること
拠点担当者にとっては、各職種のキーパーソン発掘の場となります。
- ✓ 抽出した課題は、リスト化するなどして職能団体等と共有します。
課題は、自らの職種、団体、職場にある場合も多く、
職能団体等が主体的な取組みを行うきっかけにもなっています。
- ✓ リストは、基本的には非公開（部外秘）としています。

チームかまいしの連携コーディネート手法・二次連携

- ✓ 二次連携は、一次連携で抽出された課題の解決のために複数職種をつなげる連携です。連携のフレームづくりを行っています。
- ✓ 連携拠点が、「場」と「手法」を提案し、必要に応じて協働しています。



同行訪問

◆課題の内容に応じた様々な連携手法◆◆

- ・医科歯科または医科薬科在宅医療同行訪問研修
- ・2職種または多職種合同研修会
ケアマネジャー & 薬剤師、リハ士 & 薬剤師、保健師 & 薬剤師 等
- ・2職種または多職種情報交換会、意見交換会
- ・他自治体等からの視察対応 ・学会等共同発表



視察対応



研修会



情報交換会



共同発表

チームかまいしの連携コーディネート手法・三次連携

- ✓ 三次連携は、多職種が一堂に会する機会です。
- ✓ 当地域の包括ケアに関するコンセンサス形成の場であり、共有の場でもあります。
 - ①各職能団体や施設の代表等が集まる会議を開催(開催支援も含む)しています。
 - ②多職種を対象とした研修会(※1)を開催しています。

※1 地域の連携推進に関するコンセンサスや取組み等を共有する場

～主な「三次連携」の機会～

◆釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会

(事務局：ケア本部)

◆釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会

※現在休止中

(事務局：釜石医師会+ケア本部)

◆(特非)釜石・大槌地域医療連携推進協議会 ～OKはまゆりネット運用主体～

※事務局運営会議構成員として各種会議、主催事業に参画 (事務局：釜石医師会)

◆釜石・大槌地域医療介護福祉多職種連携の会 ～通称：OKスクラムねっと～

※世話人として各種会議・主催事業開催に参画 (事務局：県立釜石病院)

その他 多職種対象〇〇事業報告会など

例：歯科医師会主催多職種対象「歯科×他職種」連携推進研修会

チームかまいしの連携コーディネート手法・開催の支援

◆チームかまいし連携支援事業

⇒ (改) チームかまいし多職種連携推進支援事業

一次連携で抽出された課題や相談窓口寄せられた課題の解決策など、職能団体等が主催する研修会等の開催を支援しています。

メリット①	ニーズに基づいた研修を実施できる。
メリット②	経費、労力の負担軽減、有効活用
メリット③	連携拠点と職能団体等との連携の推進
デメリット?	単独主催と比べて関係者の調整等に労力を要する。

【開催支援の例】

- ・医科歯科連携推進セミナー (講師派遣、ほか) ★二次
- ・三師会学術講演会 (周知、)
- ・薬科・リハ合同研修会 (周知)
- ・介護支援専門員研修会 (周知、運営、ほか) ☆相談支援
- ・患者のための薬局ビジョン推進事業 ★二次・三次連携 (検討会・報告会運営協力、連絡調整、ほか) ☆二次・三次連携 ☆相談支援

◆連携拠点の主な役割◆

解決策の場と手法の提案
持ち込み企画に対する相談対応
講師派遣、他職種への周知、
参加者とりまとめ、当日運営、
アンケートとりまとめ、ほか

- ・事前打ち合わせにより役割を分担
- ・要所要所で進捗共有、再調整



リハ一次連携



事前打ち合わせ

これをデメリットとするか必要不可欠な取組みとするかが、イベント屋と連携コーディネーターとの違い？



薬科・リハ合同研修会

H30チームかまいし連携支援事業 チームかまいしの役割・棚卸表 《抜粋》

	2/14在宅医療人材育成研修事業 「地域包括ケア時代の歯科の役割」	3/5「地域包括ケア研修会」 ※基幹病院×包括支援センター二次連携
主催	岩手県歯科医師会、釜石歯科医師会	県立釜石病院
対象	歯科医師会会員	県立釜石病院職員、圏内介護関係職員
実施前	<ul style="list-style-type: none"> ・実施に関する関係者連絡調整 ・打ち合わせ会日程調整（一次連携） ・打ち合わせ（一次連携） ・ “ ” 実施結果起案 ・打ち合わせ会の会場借用に関する事務 ・研修開催日程に関する調整 ・GW実施内容案作成 ・GW当日用スライド作成 ・次第作成に関する連絡調整 ・配付資料印刷（町田・鳩岡） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施についての提案（県釜・包括c） ・研修会実施に係る要項案の作成（7案）⇒県釜へ ・研修会実施日にかかる関係者日程調整 ・座長への打診、依頼、連絡調整 ・県釜担当者との事前打ち合わせ 計3回 ・役割分担表案の作成 ・座長、県釜、市 3者打ち合わせ（会場：せいてつ） ・上記打ち合わせに係る関係者日程・連絡調整 ・研修会実施に関する起案文書作成 ・講師（包括c補佐）への打診、依頼、連絡調整 ・介護関係職員あて案内文書作成と発送による周知 ・参加者とりまとめ ⇒県釜へ ・アンケート用紙の作成 ・当日配付用次第作成補助 ・司会進行表作成
当日	<ul style="list-style-type: none"> ・会場設営、受付 ・ファシリテーター（GW進行） ・写真撮影と記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場設営、受付 ・司会進行、全体調整 ・写真撮影と記録
実施後	<ul style="list-style-type: none"> ・実施結果の起案文書作成 ・GW成果物の課題とりまとめ、分類 ⇒主催者へ提供 ・反省会（一次連携）日程調整、連絡調整 ・反省会実施と実施結果起案 ・連携だより記事掲載、HP掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・座長への謝金支給事務 ・実施結果報告起案文書の作成 ・アンケート集計、グラフ化⇒関係者に提供 ・地域連携だよりへの掲載、HP掲載

H30チームかまいし連携支援事業 チームかまいしの役割・棚卸表 《抜粋》

	2/23県釜市民公開講座 そろそろ、うちでも「人生会議」	1/22薬局ビジョン報告会 「多職種連携セミナー」
主催	県立釜石病院	県薬剤師会、釜石薬剤師会
対象	多職種、一般市民	薬剤師会会員、他職種
実施前	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者との連絡調整 ・実施要項作成に係る相談対応 ・チラシ作成に係る相談対応 ・会場選定、借り上げ、使用料負担に係る準備 ・広報かまいし原稿作成および掲載による周知 ・チームかまいしHPによる周知 ・地域連携だより記事掲載及びチラシ同封による周知 ・庁内メールによる周知（県釜作成開催案内のほか厚労省のACP普及啓発チラシを添付） ・保健福祉センター及び各公民館へのチラシ設置による周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会開催日設定に係る調整 ・関係者連絡調整 ・文書作成と郵送等による関係機関への周知 ・他職種の参加者とりまとめ⇒主催者へ報告 ・アンケート用紙作成 ・司会進行表作成
当日	<ul style="list-style-type: none"> ・会場設営と撤収 ・写真撮影（主催者に提供） ・記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場設営と舞台転換、撤収 ・司会進行 ・写真撮影（主催者に提供） ・記録
実施後	<ul style="list-style-type: none"> ・チームかまいし連携支援事業の実施にかかる結果報告起案文書の作成 ・会場使用料支出の事務 ・地域連携だより記事掲載、発行、発送、HP掲載 ・ブログ発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームかまいし連携支援事業の実施にかかる結果報告起案文書の作成 ・アンケート集計、グラフ等作成 ・アンケート結果公表(HP) ・地域連携だより記事掲載、発行、発送、HP掲載 ・ブログ発信

チームかまいしの相談支援【オ】

チームかまいしでは、一次連携等で抽出した課題を分類し、フィードバックすることで、課題を抱える当事者（包括ケアの担い手）自らが主体的に解決策を検討・実施するお手伝いをしています。さらに、課題解決の「場」や「手法」を検討して提案すること、あるいは共に検討したり共に実施することで、課題解決の支援を行っています。

◆◆チームかまいしの課題抽出の場◆◆

一次～三次連携の場（特に一次連携）、
資源把握、調査、相談窓口、等

◆チームかまいしの相談窓口機能

- ・ケース対応は基本行っていません。
包括支援センター等と役割り分担済み。
既にある機能は奪わず活かす。
- ・職種間、病院・施設間などの連携に関する相談に対応

相談窓口は設置したが、どんな
相談をうけたらよいかわからな
い???

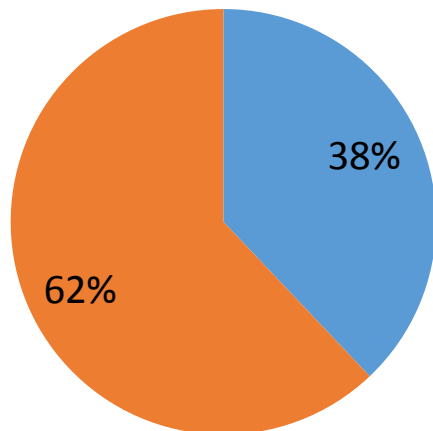
既存の相談窓口との違いは？

《課題解決支援を実施した相談事例》

相談者	内 容	相談	解決策実施
薬剤師会	薬剤師会が受託した国のモデル事業実施に係るチームかまいしの参画依頼	H27	H28
NPO法人	釜石医療圏のICT利用促進を目的とした課題抽出・分類に関する依頼	H28	H29
病院看護部	病院職員対象「退院支援」に関する研修開催に関する相談	H28	H28
病院連携室	患者家族等が介護申請を受け付けてもらえないことがある	H29	H29
薬剤師会	地域包括支援センターの保健師との連携を推進する事業を実施したい	H29	H29
病院連携室	連携実務者の多職種連携の会を結成したい（OKスクラムねっと）	H29	H29

平成29年度問い合わせ & 相談概要

①相談者の所在 n=58



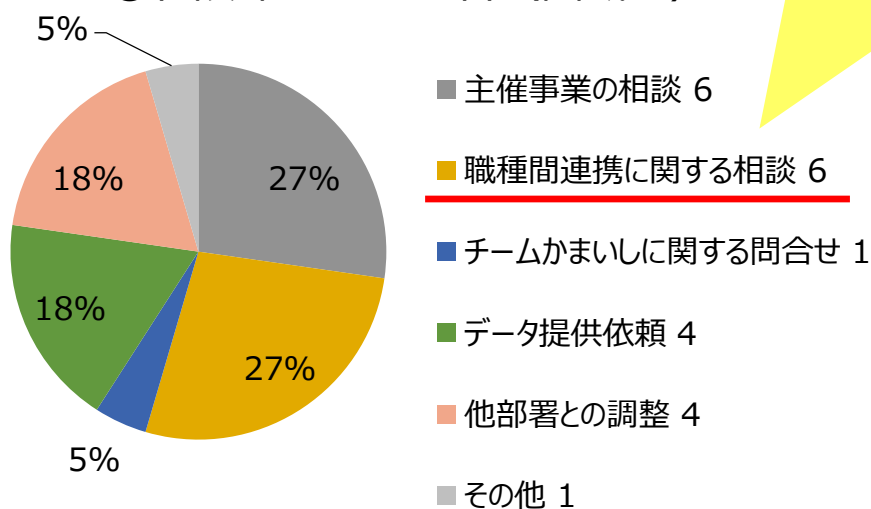
②相談者の所属（圏域内） n=22

- ケアマネジャー 1
- 自治体 1
- 市保健師 2
- 市民 1
- 職能団体 8
- 診療所 1
- 病院 7
- 薬局 1

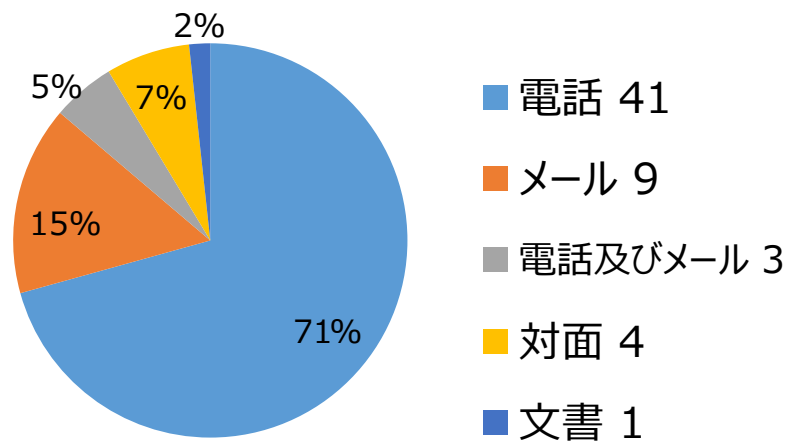
「ほしい相談」がいただけるようになるには、連携拠点の役割・機能を関係者に理解してもらう必要があります。

チームかまいしでは、一次～三次連携の場が理解を得る場の一つであり、また、研修会等の事業を協働で実施することが最適な周知の機会と実感しています。

③相談・問合せの内容（圏域内） n=



④照会・問合せの方法 n=58



岩手県立釜石病院職場研修会《チームかまいし連携支援事業》 ～なるほど!そうか!地域連携～

日時：平成28年10月24日（金）18時～20時
参加者：49名（医師6、リハ2、看護師17、事務18、MSW2）

主催：県立釜石病院（研修委員会 & 地域医療情報ネットワーク委員会）

目的：地域連携の必要性と圏域の実情を理解する。
シームレスな医療・介護の提供のため県立釜石病院の
地域の中での役割を意識する。

①講演「地域包括ケア時代の連携」 講師：寺田尚弘

②グループワーク「健康を支える連携を考える」

ファシリテーター：小田島史恵

☆開催のきっかけは連携室からの相談・依頼

☆院内の医療介護連携に対する温度差解消の支援

《病院連携室との連携の歩み》

H25 9月	地域連携だより「Face to Face」 連携室について取材及び記事掲載
H26 8月	病院連携室との一次連携 課題①・・・ケアマネとの連携
H27 2月	⇒解決策①'二次連携「連携室 & ケアマネ意見 交換会」実施
H28 5月	第2回一次連携 課題②病院間連携室連携 相談③地域医療に関する院内教育
8月	⇒解決策②'入退院に関わる圏域6病院の職員 情報交換会開催
10月	⇒解決策③'職場研修会「なるほど!そうか!地域 連携」開催 相談④職員研修開催に協力してほしい・・・
H29 3月	⇒解決策④'職員対象「退院支援アクションミー ティング」及び多職種対象「地域包括ケア研修会」 開催 講師：宇都宮宏子氏
6月	相談⑤要介護認定の申請時期等について
8月 & 3月	⇒解決策⑤'介護認定係との二次連携 「情報交換会」



釜石薬剤師会との一次連携

平成24年度	9/3、12/4、1/16
平成25年度	7/30、1/15
平成26年度	7/25、1/29
平成27年度	8/31、9/16
平成28年度	4/21
平成29年度	4/13、4/20（第1回病院薬剤師）
平成30年度	4/5
令和2年度	8/4



ケアマネジャーの
顔が分からない…**A**

どこに相談
すればよいの？…**B**

ケアカンファレンス
に呼ばれない…**C**

訪問のきっかけが
つかめない…**D**



平成24年度
抽出課題

病院薬剤師と
薬局薬剤師の連携…**E**

「訪問指示」の
処方箋が来ない…**F**

薬剤師の職能が
認知されていない…**G**

チームかまいしと釜石薬剤師会との連携による事業

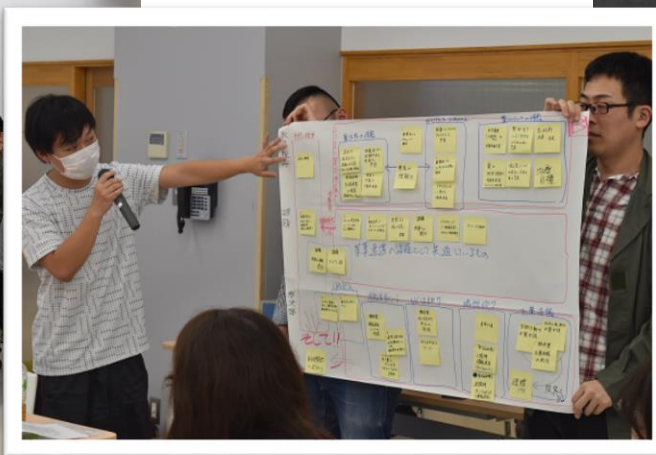
年度	抽出課題	二次連携・・・◆、ほか協働事業…◇
H24		◇薬剤師居宅療養管理指導見学研修 実施 (対象：チームかまいし)
H25	C D F G G E △ C D F G △ A B C D G	◆医科薬科在宅医療同行訪問研修実施 計3回 ◇釜石薬剤師会主催(多職種対象)研修協力 ◇三師会学術講演会協力 ◆ケアマネ薬科合同研修会実施
H26	C D F G G △	◆医科薬科在宅医療同行訪問研修実施 計4回 ◆国立長寿主催「在宅医療先進地域情報フェスタ」シンポジスト (薬・リハ・かま)
H27	△ C D E F G	◇日本在宅薬学会 ポスター発表 ◆医科薬科在宅医療同行訪問研修実施 計4回
H28	G G △ B D G	◆薬リハ合同研修会実施 ◆滋賀県高島市主催研修対応 (薬・リハ・かま) ◆患者のための薬局ビジョン推進事業検討会実施協力 計4回
H29	B D G	◆多職種研修会「地域包括ケアにおける薬剤師の役割」実施
H30	E B D E G E G △	◆薬薬意見交換会実施 ◆患者のための薬局ビジョン推進事業検討会・報告会実施協力 計6回 ◇厚労省主催「在宅医療・介護連携推進事業意見交換会」事例紹介
R01	△ E G	◇日本老年薬学会学術大会 ポスター発表 ◆多職種対象「薬薬連携の現状」実施
R03	G △	◇「楽しく学ぼう!薬剤師さんのお薬教室」市の出前講座メニューに掲載



医薬在宅医療
同行訪問研修

「チームかまいし」との連携から得られた 釜石薬剤師会の変化

- ❑ ケアマネが来局して、薬で困っている患者の情報を持ってくるようになった。
- ❑ ケアマネと薬剤師が、ケアカフェ（真面目な雑談の場）を定期的を開催するようになった。
- ❑ 有志の若手の薬剤師の勉強会が活発に行われるようになった。
- ❑ 居宅療養薬剤管理指導の件数が増加した。
- ❑ 薬局薬剤師が、医療と介護の橋渡し役として認知されるようになった。（医師への情報提供が当たり前のように実施されている）
- ❑ 薬局薬剤師が、患者の生活に近い医療従事者として職能を発揮することが期待されている。
- ❑ 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携が期待されている。
- ❑ ポリファーマシー問題を解決するには薬剤師の役割が重要と期待されている。



H24年度～チームかまいし「歯科との連携の歩み」

年度	分類	内 容 ほか
H24年度	一次連携	8/21、9/20、11/22、3/28 計4回 【課題抽出・解決策①検討】
H25年度	二次連携	4/24チームかまいし医科歯科連携推進セミナー 【解決策①実施】
	一次連携	7/31、11/14、1/16、2/20 計4回 【課題抽出・解決策②検討】
	二次連携	医科歯科同行訪問研修 5/21、8/29、9/26 【解決策②実施】
	三次連携	三師会学術講演会（多職種対象） 【コンセンサス形成・共有】 「釜石・大槌地区の医歯薬連携～チームかまいしの活動を通しての連携～」
H26	一次連携	9/30
	二次連携	医科歯科同行訪問研修 9/25、11/11
	釜石歯科 医師会	多職種連携フロー、往診依頼書、スクリーニングシート作成、地域連携だより で周知、市HPで公開
H27	一次連携	9/3
	二次連携	医科歯科同行訪問研修 2/3、12/10、12/17
H29	一次連携	2/15
H30	一次連携	10/22、1/15、3/28 ※通算14回
	二次連携	1/14研修会「地域包括ケア時代の歯科の役割」 歯科×薬・介

※各年度ごとに在宅医療連携拠点事業推進協議会で取組み報告を実施（三次連携）

《二次連携》

医科歯科在宅医療同行訪問研修 H25～



	歯科医師数	患者数
H25年度	3名	12名
H26年度	2名	5名
H27年度	4名	24名

一次連携打ち合わせ会 & 二次連携の成果物 在宅療養患者の歯科紹介システムと歯科往診依頼書

訪問歯科診療に関する歯科—多職種連携フロー

いつ

- 医療・介護従事者等が患者・利用者宅を訪問したとき
- 施設入所者・利用者の健康状態を確認したとき

どんなとき

- ◆ 患者・利用者が歯科治療を希望している
- ◆ 歯科治療を要する状態と思われる(医療・介護従事者等の判断)



連携の土壌づくりとタネまきの
結果



釜石歯科医師会が主体的
な取り組みを開始

- ① 歯科医師会多職種委員会の設置
(連携担当者の配置)
- ② 多職種連携フローの作成
- ③ 歯科往診依頼書の作成
- ④ 歯科治療依頼スクリーニングシートの作成

※③④は釜石市HPから
ダウンロードできます。

<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2019101700212/>

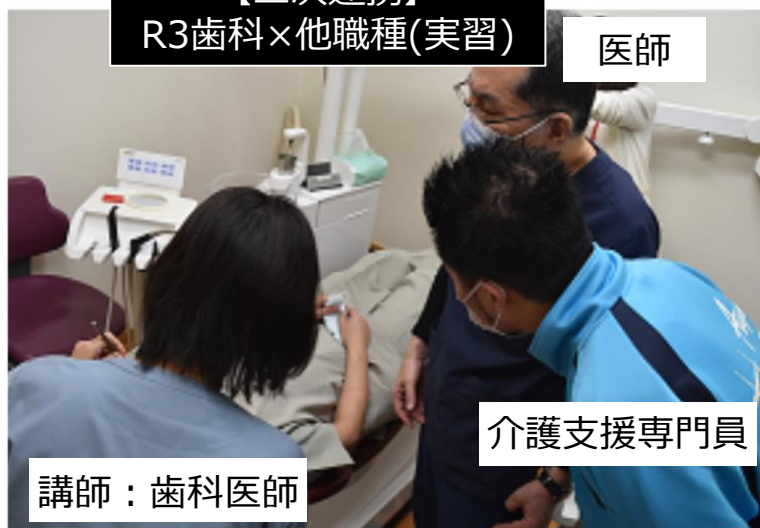
R3年度チームかまいし「歯科との連携の歩み-その1-」

実施日	分類	形式	内容
8.2	相談対応	TEL	釜石歯科医師会（泰嗣先生）より歯科医師会主催研修会の開催に係る相談
8.24	一次連携	オンライン	地域包括ケアの充実に資する研修会開催に向けた情報交換、意見交換、H30開催研修会で抽出した課題の振り返り
10.1	二次連携 (歯科×医科)	オンライン	歯科の論文抄読会、研修会打ち合わせ
11.5	一次連携	オンライン	多職種対象研修会及び12月の実習打ち合わせ
12.1	二次連携 (歯科×医・介)	リアル参集	実習「他職種を対象とした歯科口腔内診査のポイント講座」 ～歯科の診察を医科と介護支援専門員が学ぶ～

【一次連携・オンライン】
R3歯科×チームかまいし



【二次連携】
R3歯科×他職種(実習)



講師：歯科医師

介護支援専門員

【実習メニュー】

- ◆講義（座学）
 - ・口腔内の専門用語について
 - ・使用する器具その名称について
 - ・主な歯科疾患と判断基準、診査するポイントについて
- ◆実習
 - ・歯科医師による実技指導
 - ・医師と介護支援専門員の視点による問題提起
 - ・医科診療室を想定した実技
- ◆反省会

R3年度チームかまいし「歯科との連携の歩み – その2 –」

実施日	分類	形式	内容
1.12	二次連携 (歯科×医・介)	リアル参集	研修会打ち合わせ
1.26	三次連携 研修会	ハイブリット 多職種対象	認知症患者等のための「歯科×他職種」連携推進研修会 ～“クチ”からつながる多職種連携～
未定	一次連携	未定	研修会のアンケート結果から見える課題の共有ほか

【実施内容】

地域包括ケアシステムの充実に向けて、歯科と他職種(医・介)の視点による連携の課題等を共有することで、認知症患者等を媒介とした歯科×他職種連携推進に係る課題と解決策について考察し、相互理解推進の機会とする。

1. 講演 「歯を失うことがもたらす変化
～認知症の発生メカニズムを考察する～」
山崎歯科クリニック 山崎薫子氏

2. パネルディスカッション「歯科が進める多職種連携」

【歯科視点】 やえがし歯科医院 八重樫祐成氏

◆ 釜石医師会と他職種連携の歩み

【歯科の視点】 釜石歯科医師会 寺田尚弘氏

◆ 多職種連携の視点から見たオーラルフレイルへの対応

【介護支援専門員の視点】

あゆみ居宅介護支援事業所 留畑丈治氏

◆ 口腔内の認識の変化と今後の対応

【三次連携】R3多職種対象 「歯科×他職種」連携推進研修会



最も効果が大きく表れた二次連携～ケアマネ薬科合同研修会～

H26.3.10

【薬剤師との一次連携で抽出された課題】

ケアマネジャーの顔を知らない。サービス担当者会議に呼ばれない。
薬剤師の職能が理解されていない。連携に関する温度差がある。等

【解決策】ケアマネジャーと薬剤師がお互いの業務や可能性について理解する場を設ける。⇒研修会の実施



◆◆4部構成の研修実施内容◆◆◆

①職種別GW	【自分の職種を再確認!】同じ職種同士で、自分たちの業務の可能性や他職種へのアピールポイントについて意見交換する。
②混合GW	【お互いを理解しよう!】上記を参考に、グループごとに職種アピールタイム
③講演	「介護支援専門員・薬科間の課題と展望」講師:チームかまいしアドバイザー 寺田尚弘氏
④混合GW	【多職種連携・この地域の包括ケアのために】 KJ法により、課題と解決策のアイデアについて意見交換する。

薬剤師課題：アピール不足痛感。顔が見えない関係になっている。ケアマネ業務わからない。相談できない。
ケアマネ課題：経験年数が長いと「知らない」と言えない。薬剤師の仕事知らない。相談できない。
共通アイデア：今回のような場を持つ。懇親会、飲み会を開催する。

【成果】ケアマネジャーと薬剤師の連携始動!!

飲み会のグループ誕生 ⇒ケアカフェ開催 ⇒課題解決ための学習グループ誕生

- ◆ケアマネジャーと薬剤師との在宅患者への同行訪問
- ◆ケアマネジャーは薬のことは薬局で質問するように…
- ◆薬剤師がサービス担当者会議に呼ばれるように…
- ◆介護施設職員対象とした薬剤師の職能紹介

ケアマネ薬科合同研修会実施の波及効果 地域資源創出

二次連携から発展した
連携の形
介護福祉連携グループ
「かだれ」の誕生!!

やっていることは飲み会ですが、
ばっちり顔の見える関係が構築
まちの活性化に寄与していると
いう自負あり。

釜石地域の人材不足解消の
きっかけになればいいなあ・・・

by主宰者



H27「ケアカフェかまいし」

「ケアカフェ」は、
多職種顔の見える関係づくり
や日頃のケアの相談場所として
提案されています。

主宰者は「かだれ」と同じ
薬剤師と介護支援専門員

アルコールを飲めない人でも参
加できるものはないかと考えて
行きついたのがケアカフェ



H28「かまいしユニゾン」

ケアカフェから出た多数の意見
『多職種が集い、専門職の能
力アップにつながる研修会』
を実現する自主活動グループ

主宰者は、栄養士、
薬剤師、介護支援専門員



「ささえる事例検討会」の様子

◆ 設立目的 ◆ ◆

- ① **理解を広げる場** 圏域の連携強化を目的に、連携実務担当者の意見交換と情報共有を行う
- ② **課題抽出及び解決の場** 多職種全体で解決すべき課題を抽出し、解決に向けた方向性を見出す
- ③ **情報連携を促進する場** 住民が質の高いケアをシームレスに受けられるために、ICTなどを用いた情報共有システムと連携する
- ④ **住民への発信の場** 講演会や勉強会などを通して住民への普及啓発活動を進める

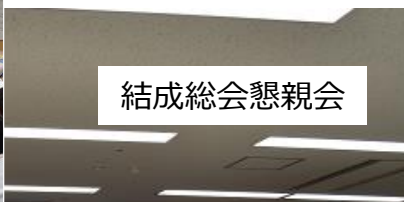
～ 結成までの経緯とその後の取組み～

H29 12/8	チームかまいしに病院事務局次長より、会結成に関する電話相談あり
12/13	病院連携室とチームかまいしの懇談会開催 ・設立企画(案)・会則(案)について ・世話人の構成について ・医師会との連携について ほか
H30 1～3月	第1～3回世話人会開催 結成総会
6月	研修会①シンポジウム「地域連携の実際」
11月	研修会②講義・実技「食事時の姿勢とポジショニングについて」
2月	研修会③OKスクラムねっとWG報告会 ・食形態WG「食形態OKスケールについて」 ・情報共有作成シート作成WG「入院時・退院時情報提供書について」

研修会③



結成総会懇親会



釜石・大槌地域医療介護福祉多職種連携の会 結成総会



◆ 世話人会 ◆ ◆

◆ 代表世話人・・・医師会理事

(チームかまいしアドバイザー)

◆ 世話人・・・各職能団体、保健所、チームかまいし ほか

◆ 事務局・・・県立釜石病院地域医療福祉連携室

※運営は、世話人と事務局で構成する世話人会が行う。

※原則、年6回世話人会を開催する。

◆主な機能

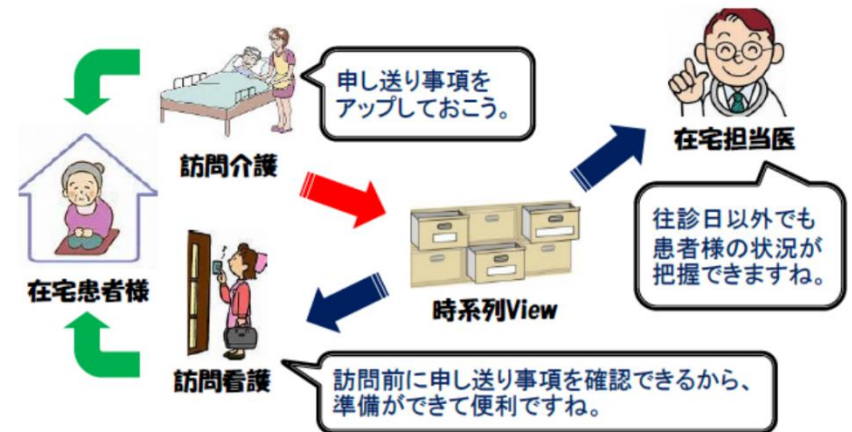
県立釜石病院を中心とした患者の医療・介護情報を医療機関や施設間で共有

☆ 県立釜石病院（基幹病院）への診療・各種検査・栄養指導の予約

☆ " の検査画像・結果、診療記録、処方履歴、注射履歴、介護用文書等の共有
※職種別に制限有

◆加入施設 (H2.10月末現在)

	加入施設数	加入率
病院・診療所 (6+16)	(6+13)	86.4%
歯科診療所 (18)	12	66.7%
調剤薬局 (20)	16	80.0%
訪看 (2)	2	100.0%
介護事業所等 (48+1)	26	53.1%
行政・医師会 (4)	4	100.0%
計 (115)	79	68.7%



◆利用者数 (R3.3月末現在) **6,363人** ※圏域人口43,148人

◆運営主体 ※法人設立以前は行政が事務局の任意団体として運営。現在はオブザーバー

NPO法人釜石・大槌地域医療連携推進協議会

設立：平成28年4月28日 会長：小泉嘉明(医師会長) 事務局：釜石医師会内

会員：16名 (釜石医師会7、釜石歯科医師会3、釜石薬剤師会3、
釜石広域介護支援専門員連絡協議会2、釜石リハビリテーション療法士会1)

事務局運営会議構成員

医師会、保健所、釜石市、
大槌町、基幹病院

地域住民への普及啓発 【キ】

◆在宅医療普及啓発用冊子の発行・活用

◆市民公開講座等の実施（主催・開催支援）

- ・H25「がんになっても安心して暮らせるまちづくり」
- ・H26「食べること生きること～健康を支える多職種連携～」
- ・H27「地域包括ケア時代の自助 ～超高齢社会、健康と美は自ら努力するものに宿る～」
- ・R1 「人生100歳時代の みんなで考えよう！

釜石市の地域福祉と包括ケア」

《チームかまいし多職種連携推進支援事業》

- ・H29「地域包括ケアにおける薬剤師の役割
～介護支援専門員、保健師との連携～」

主催：釜石薬剤師会、釜石広域介護支援専門員連絡協議会

- ・H30「そろそろうちでも『人生会議』」 主催：県立釜石病院

◆生涯学習まちづくり出前講座の実施

地区民生児童委員協議会、町内会等 ※R3～新メニュー追加!



事前のお申し込みは不要です。

岩手県立釜石病院 市民公開講座

そろそろ、うちでも

「人生会議」

「少しずつ、もしものときのことを考えてみませんか？」
～ACP(アドバンス・ケア・プランニング)について～
講師／高橋 浩 氏(岩手県立二戸病院 副院長)

「大事な人と、将来の話をしよう」
～代理意志決定者が抱える苦悩～
講師／西 明子(岩手県立釜石病院 緩和ケア認定看護師)

いまは元気だけれど、もしかすると突然、自分で意思決定ができなくなるような病気になるかもしれない。そういう事態に備え、患者さんご自身とご家族、また、介護従事者、医療従事者が終末期を含めた今後の医療や介護について話し合い、あらかじめ意思決定をしておく、というACP(アドバンス・ケア・プランニング)が、超高齢社会を確立しています。ACPを実践している第一線の医療スタッフから、ACPの実践についてご質問いただけます。患者さんだけでなくご家族、一般市民の方ぜひご参加ください。

平成31年2月23日 土
14:00～16:00(開場：13:30)
会場／チームスマイル・釜石PIT
(釜石市大町1-1-10 釜石情報交流センター)

入場無料



お願い/会場には駐車場がございませんので、近隣の駐車場をご利用ください。
主催/岩手県立釜石病院 共催/釜石市(在宅医療連携拠点チームかまいし) 後援/(一社)釜石医師会
お問い合わせ/岩手県立釜石病院 地域医療福祉連携室 でんわ: 0193-25-2011(代表)
岩手県立釜石病院公式ホームページ/<http://www.kamaishi-hp.com> ~人をつなぐ、地域をつなぐ、命をつなぐ~

課題解決のための薬剤師会と行政の協働による講座メニュー

【薬剤師会の課題】

薬剤師の職能が理解されていない。薬剤師会の出前講座が活用されない。

【行政の課題】

地域包括ケアシステムの「支え手側」の取組みや
多職種連携の取組みの重要性が「支えられる側」に伝わりにくい。



【解決策】◆◆行政と薬剤師会の協働による講座メニューを作成◆◆

「楽しく学ぼう!薬剤師さんのお薬教室」

- ・地域包括ケアシステムと在宅医療連携拠点チームかまいしについて
- ・薬剤師の活用法～かかりつけ薬剤師を持ちましょう～
※薬剤師会の立場からチームかまいしとの連携効果についても紹介

一般住民の
メリットは？

【講座実施に係る役割分担】

住民	学びの場の設定、参加者への周知 会場設営、当日運営
薬剤師会	講師選出の調整、講師謝金 配付資料の提供、 行政との事前打ち合わせ
行政	住民への働きかけを含む周知、実施 に向けた各種調整、当日運営補佐、 前座の講師、アンケートとりまとめ



地域連携だより「Face to Face」の発行

- 相互理解を目的とした医療や介護の専門職向け情報誌
- コンセプトは、情報誌版「顔の見える会議」
- 紙ベースで圏域の関係機関に送付のほか、釜石市HPに掲載

<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2019121900159/>



《主な掲載内容》

チームかまいし主催・共催事業、新規オープン施設等・職員紹介、
職能団体主催研修の周知、地域包括ケアの充実に向けた地域の活動紹介、等



「取材させてください!」～拠点が資源を把握するためのツールとして有効～

『支えられる側(一般住民)』には見えにくい『支え手』の取組みの見える化にも活用



チームかまいしの取組みのポイント まとめ

- 釜石市では、釜石医師会との連携によって地域包括ケアシステム充実にに向けた取組みを推進しています。
- チームかまいしでは、**連携コーディネーターの役割を各職種の専門性が発揮できる環境や関係性を整えること**と考え、一次連携等により職種毎に課題・ニーズを抽出し、解決のための「手法」や「場」を検討・提案・協働しています。
- 解決策の1つとして「二次連携」の実施による連携のフレームづくりを行っています。
- 一方、抽出した課題をフィードバックすることで、団体自らも解決策を検討し、主体的な取組みを実践しています。
- **連携の土壌づくりとタネまき**を行ってきた結果、釜石保健医療圏では、**連携当事者(ケアの担い手)の主体的な取組みが推進されています。**
- チームかまいしでは、各主体の取組みを地域の関係者や一般住民に共有する場を設けることで、相互理解推進に努めています。(三次連携、連携だより、Facebook)



ご清聴ありがとうございました。

釜石市HP「チームかまいしの連携手法に関するマニュアルを公開します」
<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2019101700236/>